

NiiGATA

生涯学習にいがた

No. 36
2004. 3

- 家庭教育・子育ての電話相談
「すこやかコール」
TEL 025-283-1150
- 学習相談
TEL 025-284-6119
- 新潟県体験活動等支援センター
TEL 025-284-6145
- 生涯学習情報提供システム
ラ・ラ・ネット
<http://www.lalanet.jp>



施設の訪問



エル・ネットで講義を受講



宿泊研修 (アイスブレイキング)



演習の成果発表会

コラム

衛星放送を活用した社会教育主事講習の開催

県立生涯学習推進センター 学習振興課長

貝瀬 秀行

当センターでは、エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）を活用して受講する社会教育主事講習を平成十四年度から開催しています。今年度は、一月十九日（月）～二月二十五日（水）の期間、一般社会人三名の計十一名（内三名が分割受講）が受講しました。

本講習は、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（受講者十一名）を主会場に、受信会場として北海道会場（十九名）、島根県二会場（二七名）広島県会場（十九名）として、新潟会場の五会場を実施しました。講習の科目と取得単位は、生涯学習概論二単位、社会教育計画二単位、社会教育特講三単位、社会教育演習二単位の計九単位で分割取得も可能です。社会教育演習は県立青少年研修センターで二泊三日の宿泊研修を行い、現地研修は新潟県女性財団、ほか三施設の見学を実施しました。

夏には、新潟大学でも社会教育主事講習が開催されましたが、本講習は大学の講習と比較し、次のようなメリットがあります。宿泊研修費以外に経費負担がないこと。生涯学習・社会教育に関する幅広い視点をもつ講師の講義等を受講できること。そして、分割取得も可能であることです。

また、新潟会場の特徴は、一般社会人の方が昨年は八名、今年度は三名受講し、資格取得を契機に独自に社会貢献を目指して頑張っている点があります。

今年度、県の調査によると各市町村の社会教育主事設置状況は、義務市町村で二十％、町で二八％、村で一七％、未設置です。町村合併が進み、新たな生涯学習・社会教育の構築が望まれます。専門職としての社会教育主事の果たす役割は、大いに期待されています。養成を進めたいと計画する町村には、講習への教育主事の養成を進めたいと計画する町村には、講習への受講とPRをお願いたします。

学校と家庭・地域が一緒になって

新潟市立坂井輪中学校 ～坂井輪タイム（学校裁量の時間）の活用～

当校は、生徒の「個性の伸張を図り、『生きる力』を育む」ために、家庭及び地域との交流・連携・融合を進めている。特に総合的な学習の時間における生き方・進路指導、学校裁量時間・学校行事を活用した取組の創意工夫に努めている。留意点は以下の三点である。

学年・学校行事に関わる活動は、可能な限りPTAとの共催にする。

小・中学校、地域と三位一体の活動を推進する。

地域の「ひと、もの、とき」を積極的に活用する。

ここでは、と の具体的な取組として、坂井輪タイム（以下ST）の取組を紹介する。

ST取組の概要

1 趣旨

生徒の個性の伸張を図るため、自ら進んで学習したり活動したりするための「とき、もの、ひと」を保障する。

2 運営上の留意点

(1)弾力的な運用（部活動・生徒会活動との両立）

(2)地域・保護者との連携 毎週水曜日14:20～15:40

生徒のニーズを満たすような地域の中でのボランティアの場を開発する。
登録されているまちの先生、公民館のサークルの方を講師として講座を開設する。



実践結果

1 実施した内容

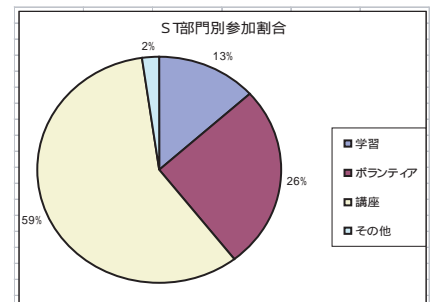
(1)主として学習に関すること【学習部門】

非技能教科の補充的な学習、質問教室、
発展的な学習（本校職員による風力発電製作講座等）
英語検定、漢字検定を受検するためのチャレンジ学習
コーラス練習、楽器の演奏
坂井輪中学校ホームページの製作

	部活 生徒会	講座	ボラン ティア	学習
4-8月		x		
9月				
10-3月	x			

(2)主としてボランティア活動に関すること【ボランティア部門】

高齢者福祉施設「てらお園」、「愛の家」への定期訪問
坂井保育園、新通保育園での世話活動・環境整備活動
盲導犬育成のための街頭募金
地域の環境整備



(3)その他の活動に関すること【その他部門】

お菓子づくり教室 囲碁講座 面接練習講座 茶道講習、
料理講習（地域の人材活用）

2 参加状況（平成15年1月21日現在）

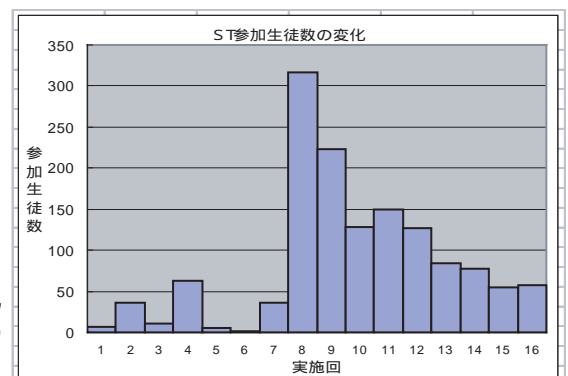
(1)参加総数；のべ1381名 生徒一人あたり2.15回

(2)参加率；平均参加率12.6%

(3)部門別参加割合、参加生徒数の変化

成果と来年度への課題

主体的に活動したいと願う生徒を支援することができるという成果を得た。また、地域の方を講師として迎え、交流・連携を深めることができた。一方で、学習する生徒が固定化し、新たな活動を促したり支援することができない、などの問題点が浮き彫りにされた。



心豊かな子どもの育成を ~ 学社融合の取組から ~

柏崎市立上米山小学校 ~ 豊かな体験活動を通して ~

当校は、子どもの豊かな人間性や社会性を育むことをねらいとして、保護者・地域の方々との連携や融合による体験活動を実施している。

大きく分けると次の3つである。

ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動

(例) ア 市内福祉施設で交流しよう

イ ハンディキャップ体験(点字・手話)をしよう

自然に関わる活動

(例) ア 地域の川を蛍や鮭のすめるきれいな川にしよう

イ 地域の動植物を観察し、歳時記カレンダーにまとめて地域に発信しよう

ウ 自然のすばらしさ、神秘さに触れよう

エ 夜語りキャンプで、昔の故郷を知り、現在と比べよう

オ 炭を焼き、環境について考え、生活に役立てよう

その他これらが複合した活動

(例) ア 花を各家庭に届け、地域を明るくしよう

イ そば栽培を通してお年寄りと交流しよう



カヌーなど海の体験

普段山や川に親しんでいるものの、海へのなじみの薄い子どもたち。保護者・地域の方の協力のもと3年生以下はローボート、4年生以上はカヌーを体験した。ライフセーバーの方たちのサポートを得て、湾内で円を描くようにパドル操作をした。

「カヌーに乗っていると、海の水がいつも流れていることが分かった」「ライフセーバーの方から救助方法を教えてもらいためになった」という感想が寄せられている。



谷根夜語りキャンプ

ふるさとを愛し、たくましく生きる子どもを育てたいというねらいで、全校を縦割り班に分け、テント設営、ネイチャーゲーム、夕食づくりなどを進める。

一番のメインは星空の下でろうそくの灯りをともした夜語り活動。地域の方がふるさとの昔の生活を語ってくださる。子どもたちは地域に住む人の苦勞があってはじめて今の便利な生活があることを学び、お互いに助け合っている地域の方々の心の温かさに触れることができた。

成果と来年度への課題

活動内容が充実し、学校と地域の人々との交流が深まることにより、学校が活性化した。これまで以上に地域と学校の双方で子どもを育てるという気運が高まっている。

忙しくて十分な打ち合わせができないという課題を抱えているものの、担当者を決めて窓口を一本化すること、何のためにどのように連携・融合したいのかを明確にすること、各学年で詳細な打ち合わせを行うことで解決しようとしている。その他連携先に実施後の報告書(たより)を届けたり、守秘義務を守る等のルールづくりにも留意している。

家庭教育サポーター養成研修会修了者の活躍

大竹享子さん（三条市）

研修会に参加して感じたことは？
「カウンセリングの基礎研修」で「傾聴」することの大切さ、また話を聴いてもらえることで、自分の考えを整理することができるということを実感しました。

どのような活動を？

公民館主催の「子育てスクール」の企画を担当しました。参加した今のお母さんたちの話を聞くことができ、自分自身とても勉強になりました。今年も参加の予定です。地道に活動を続けていきたいと思えます。



高杉久美子さん（吉田町）

研修会に参加して感じたことは？
町で子育てサークルの代表をしていたところ、この研修を受ける機会に恵まれました。内容が充実していて、改めて「生涯学習する楽しさと喜び」を感じました。ぜひ学んだことを生かしたいと強く思いました。

どのような活動を？

町より「子育て電話相談室」のお話をを受け、月に2回ですが、子育て支援の一つとして活動しています。また、かねてより町に要望していた「子育てネットワーク協議会」も立ち上がり、会長の任をいただきました。これからも子育て支援の輪を広げ続けたいと思えます。



研修会の紹介

～地域教育コーディネーターの養成～

本研修会は、受講者が「参加」「体験」「交流」を通して、教育指導者から様々な活動の学習支援者への転換を目指すねらいで、「つなぐ」をキーワードに実施しました。

研修会では、「つなぐ」の役割を、次の二つの視点でとらえました。

地域と学校をつなぐ役割、地域と家庭をつなぐ役割、教師と児童・生徒をつなぐ役割
学校教育と社会教育（公民館やまち「地域」づくり）をつなぐ役割

昨年7月31日～8月1日の二日日程で行いましたが、せっかくお申し込みをいただいたのに、お断りをさせていただいた方がいるほど人気の高い研修会となりました。

研修初日は、人間関係づくりの基礎を体験を通して学ぶとともに、実際に地域教育コーディネーターとして活躍されている方3人の実践発表を聞きました。二日目は、ワークショップ形式で、ファシリテーショングラフィック（会議促進技術）の手法を学びました。なお、受講者の内訳は、市町村の生涯学習関係職員が27人、学校関係職員が16人、その他が2人でした。

研修会終了後のアンケートに記入していただいたコメントの中から一つ紹介します。

日頃は悶々と悩み多き日々を送っています。ここに来て不思議、そんな悩み何でもないように思えてきて明日から人とのつながりの大切さ、つながるためには、自分が一歩ふみ出すことが大切であると感じました。心機一転頑張れそうです。



研修会の一コマ「ワークショップ」